

地域の産学官で創薬力強化

【インタビュー】未来を拓くチャレンジに向けて (前編)

国立大学法人 山梨大学 副学長

岩崎 甫 先生 (医療・学術研究・産学官連携、グローバル推進)



富山くすりコンソ「くすり」から

薬都 最前線

産学官で富山の医薬品産業の発展を図る「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアム(富山くすりコンソ)では、その取り組みに携わるさまざまな人が「くすりコラム」を執筆しています。今回はそのひとつを紹介いたします。

令和5年度からリニューアルして実施している富山くすりコンソの研究開発補助金「実用化総合支援プログラム」コンソの研究支援チームが研究者と伴走し、協力しながら実用化のゴールを目指しています。このプログラムでは、年に2回、研究評価委員会が開催され、進捗状況の確認と評価が行われています。今回は、その研究評価委員会委員長を務めたいという岩崎甫先生にお話を伺いました(聞き手・富山くすりコンソ事務局・高森)

「はじめに、これまで取り組みについて、岩崎先生の率直な印象をお聞かせください」

「私がこの富山くすりコンソで、これまで取り組みについて、岩崎先生の率直な印象をお聞かせください」



いわさき・まさる氏 1973年東京大学医学部医学科卒業、附属病院第2外科入局。83年山梨医科大学第2外科。93年ヘキスト・ジャパン(株)臨床開発本部。2005年グラクソ・スミスクライン(株)開発本部・本部長。11年山梨大学大学院医学工学総合研究部 臨床研究開発学講座特任教授、厚労省早期探索の臨床試験拠点整備事業プログラムオフィサー。15年山梨大学副学長(融合研究臨床応用推進センター長、大学院先端応用医学講座特任教授併任)。AMED 革新的医療技術創出拠点事業プログラムオフィサー。19年同プログラムダイレクター。20年AMED 医薬品プロジェクトプログラムダイレクター。21年度より富山くすりコンソ研究評価委員会委員。24年度より同委員長。

日本の仕組みは欧米に遅れ、大きな差

「富山くすりコンソに関わっていただくことになったきっかけは、コンソの事業責任者である森和彦さんとつながりとお聞きしています。森和彦さんと最初に会ったのは、医薬品の承認申請について相談

「特に思い出深いのは、私が欧州系の製薬団体のまとめ役のような立場で抗がん剤治療の効果に関する評価の仕組みを

相談した時のことです。当時の日本の仕組み、考え方というのが欧米に比べると随分遅れてきた感差がついてしまったと感じていました。森さんはそんな私の話をしっかりと受け止めてくれて、最終的には関係者が集まっ

て話し合う場、そういう会議体をつくることになったんです。その会議体は今も続いています。『実は、森さんが富山出身だとはコンソの話をお聞きするまで知りませんでした。色々多忙ななかでも富山のことに一生懸命取り組んでおられるのは、地元愛だなぁと思います』(2面につづく)

「薬都とやま最前線」では、県経済を支える医薬品製造業を取り巻く環境の今を探り、新しい取り組みに挑む姿を追う。

くすりのシリコンバレーTOYAMA 創造コンソーシアム

略称: 富山くすりコンソ

富山県内の産学官が連携し、富山の医薬品産業の発展を図るための「研究開発」と「人材育成」に取り組んでいる。2018(平成30)年度から取り組みを開始し、今年8年度目をむかえた。大学との研究成果の実用化を推進するとともに、人材育成では学生及び社会人を対象に、医薬品についての知識や技術等を体系的に学べる「ネクスト・ファーマ・エンジニア養成プログラム」を提供中。

発展を目指すという強い思いが感じられます」

専門人材の育成

「さらに言えば、このプロジェクトでは大学の研究支援のみでなく、今後の富山の医薬品産業を支えていく専門人材の育成プログラムにも注力している。近年、日本国内でも地域の産学官が連携した取り組みが色々と行われるようになり、富山くすりコンソは、まさに「くすりの富山ならではの」地域の特徴を活かしたチャレンジです。ぜひとも頑張ってくださいと思います」

「二存の」とおりアメリカなどではパイオニアが非常に成長して、製薬会社よりも多くのシーズを創出しています。それと製薬会社が購入して世に出すという仕組みです。ビジネスが創業の活動の原動力の一つとして存在する。これは産業の集積という強みを活かして特色のある取り組みを展開して、私生活はそうい意味で、私はこの富山くすりコンソーシアムの試みというのは非常に面白いと思っておりますし、貴重なものと感じています」

創薬シーズ ゴールは実用化

【インタビュー】未来を拓くチャレンジに向けて (後編)

国立大学法人 山梨大学 副学長

岩崎 甫 先生

(医療・学術研究・産学官連携・グローバル推進)



「日本が今、国を挙げ、創薬力強化に取り組んでいるなかで、大学や公的研究機関などのアカデミアの果たす役割が重要になっている」といふこと

「日本が今、国を挙げ、創薬力強化に取り組んでいるなかで、大学や公的研究機関などのアカデミアの果たす役割が重要になっている」といふこと

「聞き手／富山くすりコンソ事務局・高森

薬都 富山

富山くすりコンソ「くすりプログラム」より

薬日新聞

発行所 © (株)薬日新聞社
富山市内川原町4番24号
本社 750-0041 電話 076-421-5000
FAX 076-421-5987
URL <http://www.yakunichi.co.jp/>
E-mail info@yakunichi.co.jp
郵政 06710-6-6899
発行日 毎月7日、17日、27日
購読料 1年(税込送料別)12,000円
定価 11,000円

国内だけでなく、世界を視野に

「AMEDの医薬品プロジェクトのプログラムダイレクターとして、数多くの創薬シーズを目的とする機会があると思えます。成功確率が低いと言われる創薬研究において、アカデミアの研究者はどのような点に注意すべきと思われるでしょうか？」

プロセスが大事

「確かに創薬というのは非常にチャレンジングな取り組みで、取り組んだからといって必ず成果が出るようなことはありませぬ。そのなかで、アカデミアの強みは新しいシーズの創出にあると思

います。それをどのようにして実用化のゴールに向けて着実に進めるか、そのための実用化までのプロセスを理解する必要があります。創薬のゴールというのは、患者さんに届けることだと思ふんです。そこに向かう、というプロセス

を経ていく必要があるのか、その観点を身に付けることが一番大事なことだと思ふます」

批判的な目も

「また、新しいシーズを見つけたとしても、新しい医薬品になる価値をもっているかどうか最初

は分からないものです。そこで、様々な観点から批判的な目で見ながら育てていくような取り組みが必要になります。どうしても見つけたシーズの魅力に取り付かれるというか、批判的な目で見るのが難しくなる場合がある。往々にしてあります。我

が子がかわいいという感覚に近いかもしれませぬ。せっかく見つけたシーズだからと、大事に過ぎて我が子のようにかわいがる。そうすると、結果的に焦点の定まらない研究になってしまうことがあります」

(2面につづく)

でした。岩崎先生は、臨床経験のある外科医から製薬会社の医薬品開発責任者を経て、今は再び大学へ戻って医薬研究の充実に取り組みでおられます。そういった視点から、アカデミア創薬の活性化についてどのようにお考えでしょうか？」

「日本のアカデミアの先生方は、ご自分の研究成果が社会実装されて、社会の役に立つことを願って研究に取り組んでおられる方が多いように思います。ある意味、科学者としての崇高な目的意識といえます。それが日本の特徴なのかもしれません。アメリカのように、ビジネスが創薬の原動力になるようなことはあまりない。アメリカのバイオベンチャー

「それに比べると日本のベンチャー・キャピタルは弱い、というような言い方をされることもありますが、それ以前に研究者の意識の違いがあるように思ふます」

日本の特徴

「私が時々、日本のアカデミアの先生方にお伝えするのは、今研究している創薬シーズは日本国内の患者さんだけが対象なのではなく、同じ病気で悩んでいる世界中の患者さんを救える可能性を持っているということ。志を高く、世界を視野に研究に取り組んでいただきたいと思ふます」

くすりのシリコンバレーTOYAMA 創造コンソーシアム

略称：富山くすりコンソ

富山県内の産学官が連携し、富山の医薬品産業の発展を図るための「研究開発」と「人材育成」に取り組んでいる。2018(平成30)年度から取り組みを開始し、今年8年度目をむかえた。大学の研究成果の実用化を推進するとともに、人材育成では学生及び社会人を対象に、医薬品についての知識や技術等を体系的に学べる「ネクスト・ファーマ・エンジニア養成プログラム」を提供中。

「アンビュ」未来を拓くチャレンジに向けて(後編)

国立富山大学 副学長

岩崎 甫 先生

【1面からつづく】

「富山くすりコンソ」で

は、アカデミア研究者による実用化に向けた研究を、経験豊富な専門家が伴走支援する「実用化総合支援プログラム」を実施しています。

「研究者が実用化のゴールに向けた適切な研究プロセスを学ぶのに、実際に取り組むことができないというのは貴重です。一般的な総論を座学でやるのは簡単ですが、具体的な事例にぶつからないと現実の難しさは分かりません。非常に良い経験

の場が用意されていると思います。実用化への道のりは、おそらく多くの研究者にとっては未知の世界。なので、自分自身で一から調べて考えて頑張らなきゃならないのはさすがに大変です。富山くすりコンソが伴走的に支援しながら研究の取り組みを進めてもらえるのは、研究者にとってもありがたい仕組みだと思います。支援を受けながら経験できる仕組みはそうそう作れるものではないと思います。例えば、知らず

知らずのうちにせつかくの機会を見逃していたり、失礼な言い方かもしれないですが、実はたいし

「ですが、無駄が悪いとは私は思っています。無駄は結構大事です。そうしないと分からないことがあります。無駄だったものも大事な情報だと思います。」

「富山くすりコンソ」で、アカデミア研究者による実用化に向けた研究を、経験豊富な専門家が伴走支援する「実用化総合支援プログラム」を実施しています。

「富山くすりコンソ」で、アカデミア研究者による実用化に向けた研究を、経験豊富な専門家が伴走支援する「実用化総合支援プログラム」を実施しています。

「富山くすりコンソ」で、アカデミア研究者による実用化に向けた研究を、経験豊富な専門家が伴走支援する「実用化総合支援プログラム」を実施しています。

「富山くすりコンソ」で、アカデミア研究者による実用化に向けた研究を、経験豊富な専門家が伴走支援する「実用化総合支援プログラム」を実施しています。

「富山くすりコンソ」で、アカデミア研究者による実用化に向けた研究を、経験豊富な専門家が伴走支援する「実用化総合支援プログラム」を実施しています。

富山の産学官連携に期待

結果はすぐに出ない。チャレンジこそ

「富山くすりコンソ」で、アカデミア研究者による実用化に向けた研究を、経験豊富な専門家が伴走支援する「実用化総合支援プログラム」を実施しています。

「富山くすりコンソ」で、アカデミア研究者による実用化に向けた研究を、経験豊富な専門家が伴走支援する「実用化総合支援プログラム」を実施しています。

「富山くすりコンソ」で、アカデミア研究者による実用化に向けた研究を、経験豊富な専門家が伴走支援する「実用化総合支援プログラム」を実施しています。

「富山くすりコンソ」で、アカデミア研究者による実用化に向けた研究を、経験豊富な専門家が伴走支援する「実用化総合支援プログラム」を実施しています。

「富山くすりコンソ」で、アカデミア研究者による実用化に向けた研究を、経験豊富な専門家が伴走支援する「実用化総合支援プログラム」を実施しています。

「富山くすりコンソ」で、アカデミア研究者による実用化に向けた研究を、経験豊富な専門家が伴走支援する「実用化総合支援プログラム」を実施しています。

メルマガ「KTT通信」

富山くすりコンソでは、医薬品産業に携わる人たちがお互いをもっと知り、理解を深め合い、つながりを広げられるようになることを目指してメルマガジン「KTT通信」を配信しています。配信ご希望の方は、下のQRコードをスキャンしてください。



「医薬品の分野では、そんなにすぐに結果がポーンと出てくるわけじゃないっていうのはもちろんです。けれども、やらなければ絶対に出てこないのだから、そう簡単ではないけれどもチャレンジするっていうことは素晴らしいことです。医薬品の歴史と伝統を持っている。産業も集積している。産学官連携も頑張っている。これだけ良いポテンシャルがあるのだから、「くすりの富山」はまだまだ力を発揮できると思っています」